

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年10月19日

【評価実施概要】

事業所番号	570207779
法人名	有限会社せせらぎ
事業所名	グループホームせせらぎ
所在地	秋田県能代市落合字下谷地251番地6 (電話) 0185 - 52 - 4121
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1番地の1
訪問調査日	平成 20年 10月 15日

【情報提供票より】(20年10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 12月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤16人, 非常勤 0人, 常勤換算 14.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000~20,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	8名	要介護2		5名	
要介護3	5名	要介護4		いし	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 84.83 歳	最低	74 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西塚医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの努力で築いてきた地域との関わりが年々深まり、地域に溶け込んでいるホームである。特に老人クラブの方々との交流を大事にし、ホームの行事に招待したり、老人クラブ事業である家庭菜園で採れた野菜の袋詰めなどを一緒に行っている。また、町内会にも入っており、ホームの状況を理解してもらうだけでなく、緊急時などホームだけでは対処できない場合のために、協力体制も確立されている。ホームは2ユニットの利点を活かした取り組みをしており、相互の交流だけでなく、よさこいキッズやカラオケなどのボランティアの訪問による楽しみや中学・高校生の職場体験、ヘルパー実習の受け入れ等、ホームの機能を地域に積極的に還元している。さらに、運営者はじめ管理者、職員全員が、現状のケアに満足することなく、常により良いサービスを考えている。利用者の目線に添い、向上心を持ったホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価では、「個々の介護計画に沿った実践と記録の記入」が改善事項として挙げられていたが、介護計画に沿ったケアについて色分けをするなど、分かりやすく、見やすいケース記録を作成していることが確認できた。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、運営者と話し合い、職員の意見も参考にしながら自己評価報告書をまとめている。管理者会議や職員会議でも話し合い、常にサービスの質の向上に向けた取り組みをしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議には自治会長、自治会老人クラブ代表、市担当者、家族代表が参加し、地域の理解や支援を得るための機会となっている。サービスや評価への取り組み状況、職員の研修等について報告し、意見交換するなど、会議をサービスの質の向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 月1回、利用者個々に応じた写真入りの近況報告を送付したり、受診後の経過報告時や面会時に家族からの意見・要望をさりげなく聞くなど、家族が意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。また、苦情受付窓口・責任者・対応機関を重要事項説明書に明記し、玄関にも掲示及び苦情処理箱を設置している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に入り、回覧板を回しながら散歩に出かけたり、自治会にも積極的に出席するなど、ホームの努力で築いてきた地域との関わりは、年々深まっている。特に老人クラブの皆さんとの交流は大事にし、ホームの行事に招待したり、老人クラブ事業である家庭菜園での野菜の袋詰めを一緒に行うなどしている。

2 . 評 価 報 告 書

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者、家族も本来の生活ができるように」から始まる理念は、地域密着型サービスの役割を考え、家庭的な雰囲気の中で目指したいこと・大切なことを主眼に、ホームが独自に作成している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記の理念は、玄関及びホールに掲示されている。また、理念の他にも「気配り・目配り・笑顔が増えるように」「上手な介護12カ条」など、日頃から心掛ける目標が掲げられ、運営者、管理者だけでなく全職員が共有し、日頃のサービスに結び付けている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入り、回覧板を回しながら散歩に出かけたり、自治会にも積極的に出席するなど、ホームの努力で築いてきた地域との関わりは、年々深まってきている。特に老人クラブの皆さんとの交流は大事にし、ホームの行事に招待したり、老人クラブ事業である家庭菜園での野菜の袋詰めも一緒にやっている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、運営者と話し合い、職員の意見を参考にして自己評価報告書をまとめ、管理者会議や職員会議でも話し合いをするなど、常にサービスの質の向上に向けた取り組みをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>自治会長、自治会老人クラブ代表、市担当者、家族代表が参加し、地域の理解や支援を得るための機会が設けられている。サービスや評価への取り組み状況、職員の研修等について報告し、意見交換するなど、運営推進会議をサービスの質の向上のために活かしている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者が運営推進会議に出席している他、ホームの運営上の相談事項は、担当課を訪問して助言を受けながらサービスの向上に繋げている。</p>		
4.理念を实践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>頻繁に来所される家族にはその都度利用者の生活状況を報告し、遠方の家族には、月1回の金銭出納報告と一緒に写真入りの近況報告を送付している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居時だけでなく、受診後の経過報告時や面会時に家族からの意見・要望をさりげなく聞くなど、家族が意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。また、苦情受付窓口・責任者・対応機関が重要事項説明書に明記され、玄関にも掲示及び苦情処理箱が設置されている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者ごとの担当職員を決めているが、基本的には職員全員で関わりを持ち、支援を行っている。運営者は、異動や離職による利用者へのダメージを十分理解しており、やむを得ない場合はダメージを最小限に抑えられるように努めている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者及び管理者は、職員の力量に応じて、外部の研修にできる限り参加できるよう努めている。また、職員のレベルアップのため、さらには利用者へのケアの向上につなげるため、資格取得に向けても、勤務に配慮しながら積極的に取り組んでいる。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>能代山本グループホーム協会に加入し、総会や研修に参加する他、そのネットワークを利用して、ホーム内だけでは解決できない悩みや問題を相談し、サービスの質の向上に努めている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居開始前には必ず本人と家族が見学し、ホームの生活や雰囲気を見てもらっている。その上で、利用者がホームに徐々に馴染みながら利用できるように配慮している。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ホームでは、利用者個々の楽しみや役割が見出せるように普段から注意を払っており、食事の準備や後片付け、洗濯たたみ、手作りの壁掛け作りなど、利用者は楽しんで役割に取り組んでいる。訪問調査当日は、昼食メニューのいちじくの料理について、職員が利用者から教わる場面が見られた。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、入居者の過去の経験や興味をできる限り把握することに努め、買い物やドライブなど、個々の要望に応えている。また、訪問調査当日には、同級会を翌日に控えた利用者が、移動式的美容院をホームに呼んで整髪する光景も見られた。職員が利用者の要望を引き出し、実践していることが確認できた。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>一人ひとりの利用者に担当職員があり、介護計画を作成している。担当職員は、ケアマネジャーと協力して、事前のアセスメントを基に利用者・家族の意見、要望等を取り入れて、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>計画は3ヶ月で見直すことを基本としている。利用者の状態の変化や新たな課題が発生した時は、その都度話し合いをし、随時の計画の見直しをしている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>訪問看護ステーションと契約し、看護師が月2回利用者の健康状態をチェックしている。また、系列の5施設間で行事参加等の交流を図っている。利用者が退居する際も、安心して暮らしを継続できるように退居先と連携するなど、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関を確保し、利用者及び家族からも同意を得ているが、利用者の馴染みのかかりつけ医とも良好な関係を築きながら、適切な医療支援を受けられるよう努めている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在ホームとしてターミナルケアには取り組んでいないが、利用者の介護の度合いが重度化してきた場合に備えて、できるだけ早い段階から利用者・家族・医師と繰り返し話し合いを行い、全員で支援の方針を共有している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、「本来の生活ができるように」というホームの基本理念を理解し、さりげなく食事へ誘導したり、食があまり進まない利用者には、頃合いを見て声をかけるなど、一人ひとりの人格を尊重した対応を日常的に行っている。また、個人情報保護については、運営規程、契約書にも明記し、秘密保持の徹底を図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者が自分なりのペースで生活できるように配慮している。特に、食事では、見守りを基本としながら、本人のペースに合わせた介助や声かけをしており、食後は利用者が居室やソファで思い思いにくつろぐ場面が見られた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と一緒に食事をしながら、楽しく和やかな雰囲気作りを心がけていることが確認できた。また、利用者は食事の味付けや準備、後片付けもできる範囲で職員と一緒にっており、楽しそうに話し合っている場面も見られた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は個々の状態に応じて介助や見守りの支援を受けながら入浴を楽しんでいる。毎日健康状態をチェックするなど、安全に入浴できる体制が確立されている。週2～3回のペースで入浴を行っているが、希望があれば毎日でも入浴できる体制を整えている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者個々の楽しみや役割が見出せるように普段から注意を払っている。食事の準備や片付け、洗濯たたみ、掃除、手芸など、利用者は自分の役割を楽しんでいる様子が伺えた。また、敷地内では犬を飼っており、動物好きの利用者がふれあいを楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って、近くの海へのドライブ、スーパーへの食材の購入、天気の良い日には新興住宅街でもあるホームの周りを1時間かけて散歩するなど、積極的に外出の機会を設けている。敷地内には東屋があり、一人で過ごすことも出来る。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中は玄関に施錠をしていない。職員は各利用者の生活状況を日頃から把握し、見守りを重視して鍵をかけない工夫をしている。利用者が一人で外出した場合は、安全に配慮しながら職員が付き添うようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>災害に備え、年2回の避難訓練を行っているほか、利用者の急変や事故発生時に備えた応急手当、初期対応訓練を実施している。また、町内会や老人クラブとの関わりを密にしており、緊急時の協力体制も確立されている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎日の食事の摂取状況及び水分補給量は、利用者一人ひとりの入浴・リネンなどの状況とともに、分かり易くチェック表に記録している。栄養バランスについては、食材毎のおおよそのカロリーが分かるシートを用いて確認し、バランスのよい食事提供を心掛けている。</p>		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホームには和風の庭園があり、そこから自然の光が十分に差し込んでくるため、ホーム内はとても明るい雰囲気である。また、職員と利用者が共同で作成した創作品が随所に飾られている。リビングや廊下の一角には、ソファや畳敷きのスペースがあり、気の合う利用者が一緒に過ごせるように工夫している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者が馴染みのものを使う重要性を家族に説明し、居室への持ち込みを勧めている。居室には、鏡や時計、ベッド、筆筒など使い慣れたものも他、写真も飾られ、利用者が安らぎを得られるような居室となっている。</p>		

は、重点項目。